

参照

集団の学習における目標と評価規準の設定

多くの児童生徒に対応できる目標を、三つの柱に沿って設定します。集団の平均になりそうな段階の指導内容を基に考えると、様々な段階の児童生徒に対応しやすくなります。評価規準は、単元（題材）の最後にどのような姿が見られるのかを想像して三つの観点で設定します。

目標と評価規準の設定方法については、「みやぎ授業づくりガイド」をご覧ください。

目標と評価規準

単元の目標

- ・買物学習を通して、買物の一連の流れや商品の選び方等を理解して買物ができる。
〔知識及び技能〕
- ・買物に関わる人に伝わるように表現を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- ・買物学習に見通しを持って取り組み、学んだことを学習や買物当日に活用しようとする。
「学びに向かう力、人間性等」

単元の評価規準

- ・買物学習を通して、買物の一連の流れや商品の選び方等を理解して買物している。
（知識・技能）
- ・買物に関わる人に伝わるように表現を工夫している。（思考・判断・表現）
- ・買物学習に見通しを持って取り組み、学んだことを学習や買物当日に活用しようとしている。
（主体的に学習に取り組む態度）